

青森県総合社会教育センター主催事業報告

八戸工業大学第二高校 ワークショップ

1 ワークショップに係る学校の要望等

企画の 카테고리	<input checked="" type="checkbox"/> 大学進学 <input checked="" type="checkbox"/> 将来の進路 <input type="checkbox"/> 多様な価値観 <input type="checkbox"/> コミュニケーション <input type="checkbox"/> その他
実施する目的	進路探求の一環として行う。高校からその先の人生をどのように考えるかを実際の先輩たちの例から自身に落とし込む。
ワークショップ終了後の目指す姿	「高校卒業の進路」という近くて遠い未来について自分で考えられる生徒になる。

2 要望を受けた上でのワークショップのテーマ

テーマ「 +1 」

この企画のカテゴリは「大学進学」「将来の進路(夢)」で、実施する目的は、進路探究の一環として行う。高校からその先の人生をどのように考えるかを実際の先輩たちの例から自身に落とし込むということから、テーマは「+1」として企画を進めます。このテーマとした理由は二点あります。

一点目は考えることです。進路について考える機会がないとしても、どんな時でも高校生が自ら進んでもう一度「考える」という経験してほしいからです。

二点目は選択肢を増やすことです。1つだけでも進路の選択肢を増やしておくことで、より自分の夢に自信の持てる材料としてほしいからです。

(Ex. ○○の夢を叶えるためには○○の大学だけではなく、○○大学もある)
 (Ex. 子どもに携わりたいなら、教員だけでなく、保育士もある)

このワークショップを通して、進路について考える楽しさを知ってほしいです。そして、このワークショップでやったことをこれからの生活に生かし、自分で自分の進路について考えることができる生徒になること目指していきたいと考えます。

3 参加生徒数

第1学年 166名

4 報告

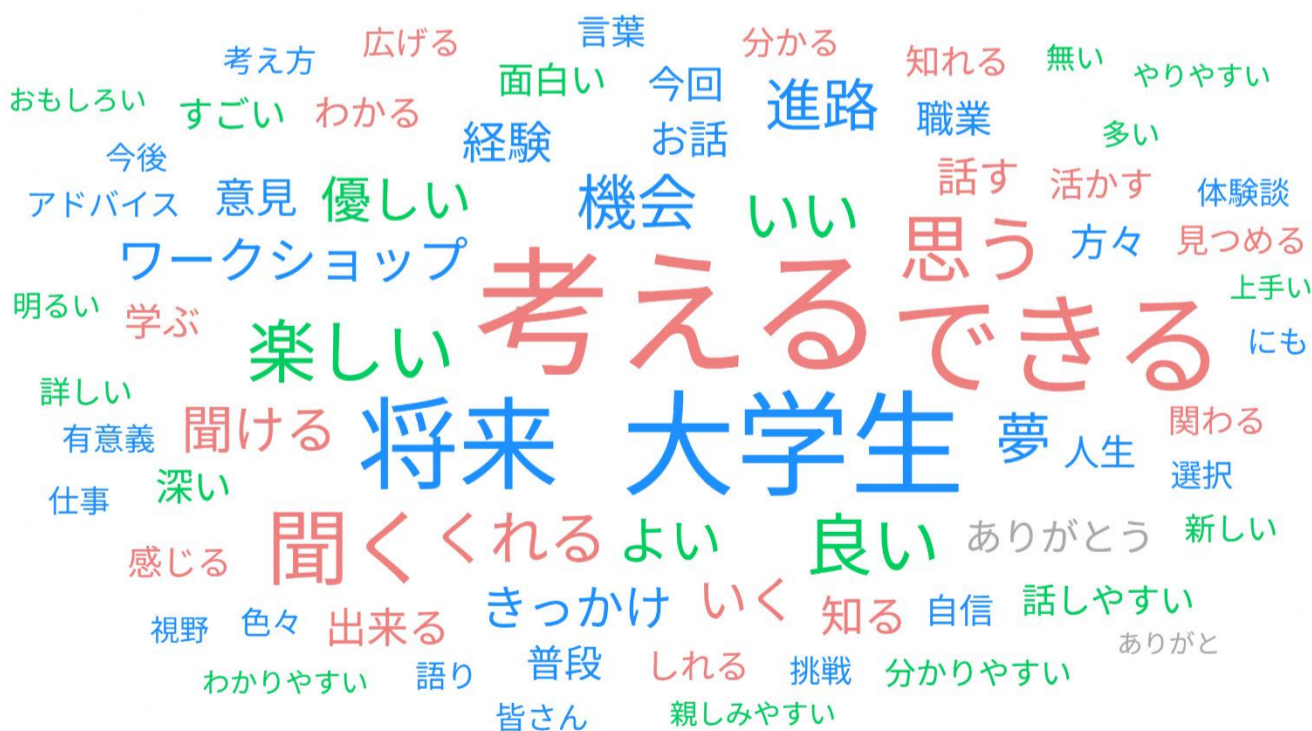
(1) 参加生徒へのアンケート結果 (有効回答数153名、有効回答率92.1%)

ア 有意義度調査

1 ワークショップは有意義でしたか?	3.76
2 ワークショップでの活動において「今の自分・これまでの自分」を見つめなおす機会となりましたか?	3.64
3 ワークショップでの活動は「将来の自分・進路選択」について考える機会となりましたか?	3.62

※アンケートはすべて4件法で実施。数字が多いほうが高評価。

イ 自由記述によるテキストマイニング分析



いろいろな年代の先輩たちの体験談を聞き、ワークショップで多くの大学生と直接交流したことで、参加者は自分の将来や進路について具体的に考えられるようになり、好きなことや得意なこと、長所を再認識して志望校や将来の夢を定めたり進路決定の方法を理解したりしたと多くが述べており、聞きやすい工夫や活発な交流により目標設定のイメージが湧き、自分を見つめ直して後悔のない選択をしたいという前向きな意欲を持つようになった。

(2) 学校へのアンケート結果

1 ワークショップの満足度は?	5
2 学校としての実施目的の達成度は?	5
3 生徒がワークショップへ参加している様子から、進路や目標を明確に意識できる様子が見られたか?	4

※アンケートは5件法で実施。数字が多いほうが高評価。